

令和8年1月14日

令和7年度 松山デザイナー専門学校
学校関係者評価委員会報告書

学校法人松山ビジネスカレッジ 松山デザイナー専門学校 学校関係者評価委員会は「令和7年度自己評価」結果を基に、学校関係者評価を行いました。その結果を以下のとおり報告いたします。

1. 令和7年度学校関係者評価委員会

委員	平山 誠	(株式会社アトリエき・な・こ 代表取締役)
	池内 俊理	(株式会社ティーズファクトリー 取締役マネージャー)
	中谷 恭治	(愛媛県情報サービス産業協議会 副会長)
	白石 浩人	(愛媛信用金庫 地域事業振興部推進役)
	八木 孝子	(ファッションクリエイター学科 在校生保護者)
	西岡 クミ	(ファッションビジネス学科 在校生保護者)
	八塚 千穂	(Web クリエイター学科 在校生保護者)
	山口 京子	(松山女学院専門学校 卒業生)
	松下 あい里	(松山女学院専門学校 卒業生)
	藤澤 渚十	(Web クリエイター学科 卒業生)

敬称略

教職員	松岡 由紀子	(学校法人松山ビジネスカレッジ 常務理事)
	室 利幸	(松山デザイナー専門学校 校長)
	重信 克也	(学校法人松山ビジネスカレッジ 総務部長)
	大野 幸美	(ファッションクリエイター学科 学科長・ファッションビジネス学科 学科長)
	高橋 良昌	(Web クリエイター学科 学科長)
	田中 早霧	(松山デザイナー専門学校 事務長)

2. 実施内容

- 開会、出席者紹介、校長挨拶
- 自己評価報告 (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境

- (7) 学生の受入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

3. 自己評価報告に関する補足説明

<教育理念・目標>

- ・創立80周年を迎える。学生と保護者にアプローチしながら継続で進めていく。

<学校運営>

- ・情報システム化については、日々システムが進化している中、情報収集に努め、教職員の業務向上を図る。

<教育活動>

- ・専任・外部講師を置いて、移り変わりの激しい内容に対応できるよう、カリキュラムを組んで実施している。
- ・教員不足について、専任で常勤していただける人材を地元で探している。

<学修成果>

- ・就職率の向上：入学時からキャリアセンターにて指導を行っている。
- ・資格取得：昨年に比べ合格率は上がっている。
- ・退学率の軽減：個別面談などを行い、生活のリズムの改善等を指導している。
- ・卒業後のキャリア形成：（東京研修の際）就職先への訪問、また在校生と卒業生の交流を図っている。
- ・80周年に向けて、これまでの課題であった同窓会を実施予定である。過去5年間の卒業生を対象に開催し、卒業生との情報交換を図る。

<学生支援>

- ・学校外での支援に関しては不十分な点があるので、保護者との連携を図りながら強化していく。
- ・同窓会組織を確立・整備し、より卒業生との連携を図っていく。

<教育環境>

- ・ミシン一人1台、PC等の設備の充実。またリアル店舗を作り学習環境を整える。
- ・防犯に対する意識啓発のため、年に1回、避難訓練・シェイクアウト愛媛への参加を実施している。

<学生の受入れ募集>

- ・学校名の認知度が上がり、募集活動も好調である。

＜社会貢献＞

- ・今年度も総合芸術舞台の衣装を制作。環境を整えてボランティア活動に参加しやすい環境づくりを行う。
- ・愛媛県警との連携に加え、とべ動物園のイベント参加等、今後も教育訓練の受託を検討していく。

4. 学校関係者評価（意見交換、質疑応答）

＜委員からのご意見＞

- ・毎年参加させてもらっているが、新しい取り組みや施設の充実、学生の学びの充実を感じた。

＜委員からのご意見＞

- ・授業風景では、講師の話に対して学生の学ぶ姿勢が良い。
- ・出席率や遅刻率はどうなっているか。

【回答】

- ・クリエイター学科の出席率は 90%以上、目標 95%以上。ビジネス学科の出席率に課題があり、個別面談等に対応している。まずは出席することを保護者連携で取り組んでいる。
- ・出席率については目標数値を設定し、月例会議において目標達成に向けて取り組んでいる。95%目標として休みにくい環境づくりに努める。歯科衛生学科と違い、国家ライセンス取得がない分、技術習得を目標に検証していく。

＜委員からのご意見＞

- ・最近の若者の中には、家庭で培うべき社会性（挨拶・ゴミ拾い等）が出来ていない現状があるが、学校での指導は限界がある。保護者も含めて、コミュニケーション能力を高めて、社会性を身につけて欲しい。

＜委員からのご質問＞

- ・良い授業また学校だと思う。
- ・制作物の依頼について、きっかけなどを聞きたい。

【回答】

- ・学校から営業をかけて制作物の依頼を頂いている。
- ・多数の依頼への対応は難しいので、現状では愛媛県や愛媛県警に限定して受けている。
- ・金銭が発生しない、お互いがウィンウィンになることを軸において、作品作りに取り組んでいる。

＜委員からのご意見＞

- ・子供は服を作ることを目的に入学した。学習環境を見学できて良い経験になった。

＜委員からのご意見＞

- ・子供からは、学校の内容について詳しいことを聞くことがなかったので、以前学校のイベント(学祭)を観覧させてもらって、より詳しく知ることができた。
- ・今回学校見学をして、デジタル化が進んでいて驚いた。各クラスにアットホーム感があり、個々の学生の将来的な成長を願っている。

＜委員のご意見＞

- ・数年前姉もお世話になり、現在は下の子供が在籍している。以前よりグレード UP を実感した。子供は必死で勉強している。
- ・学校見学の機会を頂いたり、また活動内容が TV やニュースで取り上げられるのは親として有難く思う。
- ・インスタでも子供の活動を目にするのは嬉しい。就職活動においても、先輩や現場の方の話を聞ける機会を作って頂いていることに安心している。

＜委員からのご意見＞

- ・現在、高島屋に勤務している。第 1 回の松コレクションが開催された時は会場担当だった。先生に再会して覚えていてくれたことに感動した。
グレード UP していく松山コレクションを見て、毎年楽しみにしている。
- ・卒業後初めて来校し、授業風景を見学して以前と比較はできないが、授業内容に魅力を感じた。

＜委員からのご意見＞

- ・15 年前より設備が整っているのは当然かと思うが、現在の状況は東京・大阪と比較しても進化していると感じた。今後は県外からも入学生が増える可能性を感じる。
- ・現在は、在学中に学んだ事や色彩を活かした仕事をしているが、昔を思い出した。

＜委員からのご意見＞

- ・Web の授業を見ることが出来なくて残念だった。ファッションの授業は皆さん楽しそうに取り組んでいた。

5. 閉会

- ・2/7 いよてつ高島屋ローズホールに於いて開催の松山コレクション告知
 - ・卒業制作発表会ではなく、各学年毎に 1 年間の学びのテーマを持った発表会である。
出展作品に関しては、複数回審査を実施した上で作品を仕上げている。
当日は、連携校のソウルファッション職業専門学校から学長と教授が来賓として観覧頂くことが決定している。
 - ・学校は現在の体制となって 4 年目を迎え、これまでの成果が実りつつある。
口コミを大切に広報活動を拡げて、県外からはもちろん、愛媛県内からの学生募集を強化し、愛媛で学んだあと全国で活躍してもらいたい。
- 以上